

日蓮大聖人御書全集

うえのどのごへんじ

上野殿御返事

こうふこう こと

（孝不孝の事）

新版
1898
〜
1900

うえのどのごへんじ こと

上野殿御返事（孝不孝の事）

こうあん ねん

弘安3年('80)

がつ にち

3月8日

さい

59歳

なんじようとときみつ

南条時光

こうえのどのごきにち

そうぜんりよう

こめひと

俵

た

そうら

故上野殿御忌日の僧膳料、米一たわら、たしかに給び候

お みほとけ く

い畢わんぬ。御仏に供しまいらせて、自我偈一卷よみまい

そうろう

らせ候べし。

こうよう もう

ふこう

し

こう

知

ふこう

もう

孝養と申すは、まず不孝を知つて孝をしるべし。不孝と申

ゆうぼう

もの

ちち

う

てんらいみ

裂

はんぷ

すは、酉夢という者、父を打ちしかば、天雷身をさく。班婦

もう

もの

はは

罵

どくへびきた

吞

あじやせおう

と申せし者、母をのりしかば、毒蛇来つてのみき。阿闍世王、

ちち

殺

びやくらいびよう

ひと

はるりおう

おや

父をころせしかば、白癩病の人となりにき。波瑠璃王は親

殺

かじよう

ひい

げんしん

むけん

墮

をころせしかば、河上に火出でて、現身に無間におちにき。

たにん

殺

ためし

他人をころしたるには、いまだかくのごとくの例なし。

ふこう

おも

こうよう

くどく

大

知

不孝をもつて思うに、孝養の功德のおおきなることもしら

れたり。

げてんさんぜんよかん

たじ

ふぼ

こうよう

外典三千余卷は他事なし。ただ父母の孝養ばかりなり。

げんぜ

養

ごしよう

助

ふぼ

おん

しかれども、現世をやしないで後生をたすけず。父母の恩の

重

たいかい

げんぜ

養

ごしよう

助

おもきことは、大海のごとし。現世をやしない後生をたすけ

いったい

ざれば、一滞のごとし。

ないてんごせんよかん

たじ

こうよう

くどく

説

内典五千余卷また他事なし。ただ孝養の功德をとけるな

によらいしじゅうよねん せつきよう こうよう 似

り。しかれども、如来四十余年の説教は孝養ににたれども、

せつ

顕

こう なか ふこう

その説いまだあらわれず。孝が中の不孝なるべし。

もくれんそんじや

はは

がきどう

く

救

にんてん

目連尊者の母の餓鬼道の苦をすくいしは、わずかに人天

く

救

じようぶつ

道

入

しゃかによらい

の苦をすくい、いまだ成仏のみちにはいれず。釈迦如来

おんとしさんじゅう

とき

ちち

じようぼんおう

ほう

と

だいしか

得

は、御年三十の時、父・浄飯王に法を説いて第四果をえせ

たま

はは

まやぶにん

おんとしさんじゅうはち

とき

あらかん

しめ給えり。母の摩耶夫人をば、御年二十八の時、阿羅漢

か 得

たま

こうよう

似

かえ

果をえせしめ給えり。これらは孝養ににたれども、還つて

ほとけ

ふこう

失

ろくどう

離

仏に不孝のとがあり。わずかに六道をばはなれしめたれど

ふぼ

ようふじようぶつ

どう

い

たま

たと

たいし

も、父母をば永不成仏の道に入れ給えり。譬えば、太子を

ぼんげ もの おうじよ ひつぷ 合
凡下の者となし、王女を匹夫にあわせたるがごとし。

ほとけと のたま われ すなわ けんどん だ
されば、仏説いて云わく「我は則ち慳貪に墮せん。こ

じ ふか うんぬん ほとけ ふぼ かんろ 惜 むぎ
の事は不可となす」云々。仏は父母に甘露をおしみて麦の

はん あた ひと す ざけ 惜 にご ざけ 飲
飯を与えたる人、清み酒をおしみて濁り酒をのませたる

ふこうだいいち ひと はるりおう げんしん むけんだいじよう 墮
不孝第一の人なり。波瑠璃王のごとく現身に無間大城にお

あじやせおう そくしん びやくらいびよう 付
ち、阿闍世王のごとく即身に白癩病をもつきぬべかりし

しじゆうにねん もう ほけきよう と たま ひと めつ
が、四十二年と申せしに法華経を説き給いて、「この人は滅

ど おも しよう ねはん い か ど
度の想いを生じて、涅槃に入るといえども、彼の土におい

ほとけ ちえ もと きよう き え ふぼ
て、仏の智慧を求め、この経を聞くことを得ん」と、父母

ごこうよう

ほけきよう

と

たま

ほうじようせかい

の御孝養のために法華經を説き給いしかば、宝淨世界の

たほうぶつ

まこと

こうよう

ほとけ

讚

たま

じつぼう

しよぶつ

多宝仏も「実の孝養の仏なり」とほめ給い、十方の諸仏も

集

いっさいしよぶつ

なか

こうようだいいち

ほとけ

さだ

あつまりて、「一切諸仏の中には孝養第一の仏なり」と定め

たてまつ

奉りき。

あん

にほんこく

ひと

みな

ふこう

じん

これをもつて案ずるに、日本国の人は皆、不孝の仁ぞか

ねはんぎよう

もん

ふこう

もの

だいちみじん

おお

と

し。涅槃經の文に、「不孝の者は大地微塵よりも多し」と説

たま

てん

にちがつ

はちまんしせん

しゆう

おのおの

怒

き給えり。されば、天の日月、八万四千の星、各いかり

まなこ

怒

にほんこく

睨

たも

いま

をなし、眼をいからかして日本国をにらめ給う。今の

おんみようじ

てんぺんしき

そう

もう

ちよう

ひび

陰陽師の「天変頻りなり」と奏し申す、これなり。地天、日々

お たいかい うえ しょうせん 浮
に起こつて大海の上に小船をうかべたるがごとし。今の
にほんこく しょうに たましい 失
日本国の、小児は魄をうしない、女人は血をはく、これ
なり。

きへん にほんこくだいいち こうよう ひと ぼんてん たいしやく 降 くだ
貴辺は日本国第一の孝養の人なり。梵天・帝釈おり下つ

そう はね しほう ちじん あし 戴 ふぼ 仰

て左右の羽となり、四方の地神は足をいただいて父母とあお

たも ことおお 止 そうら お

ぎ給うらん。事多しといえども、とどめ候い畢わんぬ。

きようきようきんげん

恐々謹言。

こうあんさんねんさんがつようか

弘安三年三月八日

にちれん かおう

日蓮 花押

しんじよう うえのどのごへんじ

進上 上野殿御返事